

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072900378		
法人名	医療法人 寿栄会		
事業所名	グループホーム笑顔		
所在地	福岡県小郡市三沢528番地3 (電話) 0942-73-1222		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 29 日	評価結果確定日	令和 4 年 1 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・1日の大まかな流れはあるが、時間にとらわれることなく、入居者様の生活リズムを尊重している。特に起床時間、朝食は各自、自由である。

・食事は業者に委託することなく、職員が調理をしている。献立、食材は病院の栄養科(厨房)にお願いしているが、食材を見ながら入居者様の好みに合った献立に変更することもある。おやつも入居者様の意見を取り入れ、手作りの物だけでなく、お取り寄せであったり、お店で購入することもある。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 11 月 16 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成17年に開設され、母体である病院とともに地域の医療・福祉のニーズに長年大きな役割を果たしている事業所である。建物は木造平屋で日差しも入りやすい設計で、明るく優しい雰囲気の中、居心地良く過ごせる環境となっている。理念に「利用者が家庭的な雰囲気の中でのんびり、楽しく、安心して過ごす」ことが掲げられ、職員は利用者一人ひとりの個性を尊重して、特技や趣味などを理解し、コミュニケーションをとりながら日々の生活のサポートを行っている。その中でも、食事についてはホーム内で利用者と職員が協力して調理することを大切にされ、職員は少しでも食欲が湧くようにとひと手間加えるなどの気配りをしている。法人は利用者が安心して暮らせるホームとなるよう職員が働きやすい職場環境づくりに努めている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内の職員が目につくところに理念を貼り、毎夕終礼時に唱和し共有を図っている。終礼時に行うことで、1日を振り返り自己をかえり見る機会となっている。	開設時からの理念があり、実践するうえでの目標も掲げられている。理念・目標は職員の日にとまりやすい場所に掲示されており、朝礼や終礼時に唱和されている。さらに、実践の中でも管理者が職員へ言葉かけを行い、理念・目標の達成ができるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の行事（夏祭り、初午など）入居者様と参加し、寿栄会の夏祭りや地域感謝祭には、地域の方々をお呼びし交流を図っていたが、昨年よりコロナ感染防止の為、行事が中止になり交流が行えていない。	自治会に加入し、事業所内の様子について便りや広報誌を配布し、地域の方々の理解が深まるよう努めている。コロナ禍以前は地区の夏祭りや初午祭などの行事に参加や見学をしていた。事業所主催のイベントにも地域の方を招いたり、中学生の職場体験の受け入れを行うなど、交流を図っていた。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を継続して設けているがコロナ感染防止の為、認知症サポート研修や地域の老人会の認知症に対する勉強会の参加が行えていない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止の為、現在面会等、外部の出入りを禁止している為、書面での報告となっている。今後はオンラインや公民館など、ほかの場所を借りるなどして開催を検討している。	運営推進会議は2か月に1回開催している。会議の構成員は利用者・家族代表者・市介護保険課課長・老人会会長・民生委員・理事長・事業所職員となっている。現在はコロナ禍のため書面での開催となっているが、利用者の状況や運営報告などを行い、意見をいただくように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の開催する介護保険研修に参加したり、運営推進会議（現在は書面にて報告）に参加して頂き、事業所の実情や取り組みを報告している。介護保険等についての疑問など相談している。	市介護保険課の担当者とは日頃から行き来があり、顔の見える関係である。また、事業所便りを配布して事業所内の様子を伝え、相談しやすい関係を築いている。コロナ禍においてはホームページをリニューアルして情報を発信するなど工夫している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や内部の勉強会を通じて、身体拘束に関する認識を深め、状況に応じては、家族に相談することもある。日中、玄関の鍵は施錠していないので自由に出入りができる。	居室の施錠は日中は行っておらず、外出傾向のある利用者は職員が見守っている。職員は内部で行われる勉強会や外部研修に参加し、身体拘束廃止の認識を深めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止フォーラム等に参加し、スタッフ間でも勉強会を行い入居者様同士のトラブルに発展しないように努めている。また、スタッフ間でも情報共有し理解を深め、権利侵害等ないように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時、家族への制度の説明をしている。相談があれば、その都度対応している。スタッフはいつでも対応できる姿勢でいる。	権利擁護に関する制度については、契約時や必要に応じて説明を行っている。現在、成年後見人制度を2名が利用している。外部研修へ参加した職員が、施設内で伝達講習を行い、全ての職員の理解が深めるように努めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い不安や疑問点についてはより詳細に説明をして理解をいただいている。その後の疑問や質問については、その都度説明をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム内の相談窓口を明確にしており外部での相談窓口ポスターも掲示している。現在、コロナ感染防止の為、家族会を開催できていないが、支払いなどでの訪問の際や電話などで細目にコミュニケーションを図り、意見を引き出している。	日頃の会話から利用者等の要望を聞きとり、楽しみのある生活へ繋がるように努めている。コロナ禍においては外出、買い物ができないこともあったが、家族の協力も得てネット通販を利用したりして希望に添うようにしている。家族の意見についてはコロナ禍前は家族会・意見交換会を開催し要望を伺っていた。現在は電話連絡や書面でのやり取りで話を聞くようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営について困難が生じた場合、その都度意見や提案を聞く機会を設けている。その他、意見・提案を寿栄会の役員に述べる機会を設け反映されている。	年2回の職員面談や月1回開催されるユニット会議内で意見や提案を聞くようにしている。また、出された意見は法人役員の参加がある事務会議で協議され、運営に反映させる体制がある。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は個人目標を基に個人面談を行い、人事考課を本部に提出し、昇進、昇給などに反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	幅広い年齢層が勤務している。職員募集にも年齢、性別を理由に採用対象から外すことはしていない。人間性重視の採用をし、無資格者には資格修得を目指し、休日の調整や先輩スタッフからの指導、教育などホーム全体で協力している。資格修得後は給与に反映され、意欲を持って働けるように配慮されている。	職員は性別、年齢問わず採用されている。現在は幅広い年齢層で、女性職員が多く活躍されている。法人は人事考課を行い、個人面談の際に伝えている。また、資格取得の支援にも取り組んでおり、職員一人ひとりのスキルアップに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が小郡企業内人権同和問題研修推進委員会のメンバーであり、年に2~3会の研修に参加している。入職時に理念、人権啓発、尊厳人間尊重の意識付けを行い、個人情報、守秘義務の尊重について説明を行うなどの職員への人権教育をしている。	法人内部で研修の機会が設けられており、人権について学んでいる。また、虐待防止や身体拘束廃止などの研修時にも、人権に触れ、意識の向上を図っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設病院に人材育成室がありレベルに応じた研修へ参加し、学んでいる。ケアマネ、介護福祉士、認知症実務者研修など、希望者には研修を受ける機会もあり、情報提供もしている。コロナの影響もあり、研修参加が難しい場合もある為、併設病院の内部研修にも積極的に参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は地域ケアシステム研究会、小郡三井地区介護保険研修会等へ参加し、他の施設の職員や同業者と交流する機会が多かったが、研修の減少やオンラインによる研修が増え、交流する機会が少なくなっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式のアセスメントや日々の生活の関りの中で、会話や表情から入居者様の希望や意向の把握に努め、主治医、家族にも相談している。意思疎通の困難な入居者様には家族や関係者からこれまでの暮らしや生活歴等の情報を得るようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様が一日でも早く馴染んでいただくよう、スタッフは他の入居者様も含め馴染みの関係を築けるよう援助し、何事も事前にご家族と話し合い家族の意向に近づけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様や家族の意向を聞き、計画作成担当者を中心にスタッフで話し合い介護計画を作成している。家族の意見も反映した計画であり、作成後は家族へ説明を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から生活歴、特技、趣味などを生活の中に組み込み、人生の先輩として意見を聞きアドバイスを委ねることもある。時には入居者様から言葉をかけてもらい元気を頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、面会を禁止している為、何事も細目に連絡をして近況報告を行っている。本人の様子を見れるように希望のご家族には、テレビ電話を行い、日頃の様子を映像にて見ていただいている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の夏祭りや敬老会などの催しに参加したり、面会時間の制限を設けず、外出や家屋の面会を楽しみにされていたが、現在はコロナ感染防止の為、面会、外出を禁止している。	馴染みの人や場所については、入居時に本人や家族から聞き取っている。コロナ禍前は親しい仲間や友人が尋ねてくることがあった。コロナ禍においては、手紙のやり取りなどの支援を行い、馴染みの関係が継続できるように努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に孤立しないように、ホールで活動したり、話題の提供で会話を楽しんでいる。スタッフは入居者様が馴染みの関係を築けるように支援をしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設病院や協力病院に入院した入居者様には面会をしたり家族に状況を尋ね、必要な援助を行っている。家族が不安を抱えている場合は話を聞き安心できるような声かけを行い信頼を得ている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式のアセスメントや日々の生活の関りの中で入居者様の会話、表情からニーズを把握するよう努めている。会話の中で本人がどのような生活を望んでいるか尋ねている。意思疎通の困難な入居者様については、家族、関係者から情報を得ている。	日々の利用者との会話や関わりの中で意向や希望を聞くようにしているが、迷った時は職員同士共有して、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、家族に生活歴や印象に残っていること、気を付けてほしてこと等を聞き取り、本人本位に検討をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や友人、病院などから生活歴、これまでのサービス利用の情報を得て、施設のサービスに活用している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を記録に記載し、一人ひとりの状態の把握と継続介護に活かしている。また、記載することで、新たな発見や心身の状態を把握することができている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様本人や家族の意向を聞き、計画作成担当者を中心にスタッフで話し合い、介護計画を作成し、本人家族にも説明を行い同意を得ている。	新規の入居者は、ADLや認知症の症状などを把握したうえで、利用者や家族の意向を反映した介護計画を立て、1ヶ月程度実施し、担当者や職員と共にモニタリングを行ってケアカンファレンスで具体的な介護計画を作成している。3ヶ月毎に見直しを行う際には、サービス担当者会議を行い、医師、職員や家族からも意見を聴いて介護計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3か月毎に介護計画の見直しをしている。状態が変化した場合は、家族や関係者間で話し合いを行い現状に即した新たな計画を作成している。個人日誌に気づきや工夫を記載し伝達、共有、評価見直しに活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診やショッピングなど、入居者様の希望や要望に応じて支援行っていたが、コロナ感染防止の為、外出が難しく併設する売店での買い物や移動図書館を利用するなど少しでもニーズに対応できるよう取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、書面で行っている運営推進会議を郵送する際、意見等を募る文章を記載し、FAX、電話等にて意見、アドバイスを地域の方々から頂けるようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診はかかりつけ医へ家族同伴の継続的な受診を推奨しているが、家族より併設病院への変更を希望されることが多い。併設病院の外来看護師と協力しながら健康管理や往診時の補助を行っている。	入居時に利用者や家族の意向を尊重して、かかりつけ医を決めて受診を支援している。母体が病院で内科・精神科もあり、現在は入居者全員が母体病院に受診している。受診時は職員が付き添い、受診内容は受診前と後に電話で報告している。歯科受診は週1回往診がある。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関り、健康管理での気づきを併設病院の外来看護師へ報告し内科担当医師へ判断をおおぐ。早期発見早期治療に留意している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	併設病院へ内科・精神科で外来受診している。状態悪化時は入院も可能である。通常より外来、病棟と連携をとっており、より専門的治療を必要とする転院をする場合、医療連携室と運動しスムーズに転院が行えるようサポートしている。本人・家族の精神的不安の軽減なども行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重症化した場合についての対応を確認し説明している。家族の意思も確認している。できる限り対応しているが医療が必要と判断された場合は家族、主治医、看護師が話し合い、家族が納得、理解されるまで何度も話をして、家族が希望する病院への入院となるように支援している。	入居契約時に、重度化した場合について明文化された事業所の方針を説明し、「医療連携体制同意書」を頂いている。家族との協議を重ね、事業所でする限りの支援を行っている。受診時に年1回、家族に同行してもらい、医師から状態を聞いて頂くようにしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時手順を掲示しスタッフ間で周知できるようにしている。緊急マニュアルに沿って入職時説明を行い必要に応じて勉強会を開催している。併設病院での研修（AEDの使用法、緊急蘇生法）に年1回参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期消火、避難誘導、通報訓練など、年に数回行い、消防署の立ち合いのもと指導を受けている。自主的な訓練を行っている。併設病院の多目的ホールが市の福祉避難所に指定されている為、そこまでの避難訓練も行っている。	年2回、消防署の協力を得て、消火器の使用、通報、避難訓練、夜間想定も含む火災訓練を事業所で行っている。市の福祉避難所である隣接病院のホールまでの避難訓練も行っている。風水害時・地震時のマニュアルを策定しており、地域住民に声かけしている。コンロやランプは事業所に用意されており、非常用備蓄は隣接病院にリスト化されて備蓄され。一覧表も作成されている。	災害時に事業所内へ閉じ込められた場合に備えて、事業所内への備蓄の検討を期待したい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の理念に「尊厳ある生活ができるように支援する」と明記している。入居者様の誇りやプライバシーを損ねることのないように留意している。個人記録は事務所で記載し鍵をかけ管理している。	「利用者の個性を尊重し、安心して尊厳のある生活ができるよう支援する」と理念に掲げられており、利用者の誇りやプライドに配慮した声かけを行っている。夜間に居室で使用しているポータブルトイレも日中は居室に置かないなど自尊心を傷つけないような支援を心がけている。居室入室時にはノックをするなどプライバシーの確保に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的な食事会やおやつ会を催している。その際は、入居者様の好みを聞き希望の献立を提供している。感染予防に気を付けながら、楽しく和やかな雰囲気大切にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床時間や食事、入浴に時間の制限はない。その方のペースを大切に、何事も強制しない支援をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の生活歴から、あるいは家族から聞き、好みの服を着て頂いたり、お化粧の声掛けをするなどの支援も行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2度、入居者様の希望を聞き、献立を考えスタッフが食材を購入し、調理をしている。感染予防に気を付けながら、下ごしらえや食器洗い、おやつ作りなどスタッフと一緒にやる。楽しく和やかな喫食の時間を過ごしている。	献立は本部の管理栄養士が作成している。事業所内で3食とも手作りして温かい家庭的な食事を心がけている。食べたいものを事前にリサーチして、食事会を月2回実施する等、食事が楽しみなものになるよう配慮している。また、敷地内の家庭菜園で収穫された野菜を調理することもあり、利用者は下ごしらえ、盛り付け、茶碗拭き等手伝うなど、意欲の向上を図っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に併設病院の管理栄養士がカロリーを計算し献立を考えている。入居者様の嚥下状態に応じて、刻み食、ペースト食を作り対応している。毎日食事、水分摂取量をチェックし記録している。必要エネルギー量の少ない方には家族と相談をして栄養補助食品なども使用している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、歯磨き実施、入居者様の状態に応じて介助している。義歯は就寝時に預かり夜間に洗浄消毒をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ排泄誘導を行っている。尿量に応じて、布や紙パンツ、パット類を選択し使用している。オムツの使用法が適切かどうか日常的に評価を行っている。	排泄チェック表を用い、利用者ごとに排泄パターンを把握している。利用者の表情や仕草から、早めにトイレへ、誘導している。オムツやパッドを使用している利用者については排泄チェック表で尿量・回数など排泄状況を確認し、ユニット会議で話し合い、見直しを行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響など理解し便秘予防で、適度な運動、十分な水分補給、腹部マッサージ、食物繊維（サプリメント）の摂取などを行っている。個人に応じた緩下剤も医師の指示のもと使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は基本的に週3回としているが、希望される方は毎日でも可能である。入浴時間などの制限はなくゆっくり入浴できるようにしている。拒否のある方は無理のないように声をかけ、気分を変えて入浴して頂いている。	週3回入浴の設定はあるが、毎日準備をしており、一人ひとりのタイミングや希望があれば入浴できる。入浴を望まない利用者には時間や職員を変えたり、言葉かけや時間をかけて寄り添い、無理強いはせず、個々に沿った支援をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分な睡眠が取れるように、日中は適度な運動や散歩、外気浴、レクリエーション等を日替わりで行っている。居室の温度調節や個人にあった寝具も家族に相談をし揃えていただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方、薬の効果副作用、飲み合わせなどの勉強会を開いている。処方の変更は体温表に記載し、全員が把握できるように申し送る。大きな錠剤などは粉状にして飲みやすくし服用後口腔内の確認を行っている。また異常の早期発見目的もあり毎朝バイタルサインのチェックも行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味・特技など把握し、食事作り、後片付け、生け花、草取り、乾いた洗濯物の片付けなどちょっとした家事など会話も楽しみながら気分転換をしながら行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設病院のグラウンドが隣接しているの日常的に散歩をしている。感染予防の為、外出できないが病院の売店に行ったり、移動の図書館を利用している。	コロナ禍のため、事業所内で月2回、食事会を実施したり、季節行事を行ったり、天気の良い日は敷地内にある外周できるグラウンドで散歩したり、敷地内の売店でお菓子を買ったりするなど、安全に配慮しながら外出支援を工夫している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望に応じ各自がお金を所持できるように支援している。売店での買い物時、本人が欲しいものを選ぶように支援行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じ自ら電話をかけ、家族や友人と話することができる。希望される方には年賀状を用意したり手紙を書く支援も行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは中庭に面し間取りも広く明るい作りである。天井も高く圧迫感を感じない。ユニットを仕切っているドアを開放すると空間が広く感じゆったりできる雰囲気である。また玄関やリビングには季節の花を飾り季節感を味わいBGMが流れ居心地よく過ごせるように配慮している。中庭には季節ごとに花が咲く木を植えている。	左右対称にユニットが配置され、天井が高く開放感があり、アイランドキッチンで入居者との交流も近く感じられる。季節感のある貼り絵も入居者と職員が作り掲示されており、利用者がくつろぐことができるよう配慮している。温・湿度は調整され広いテラスでお茶を楽しんだり、居心地良い開放感のある空間になっている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに食事のテーブル、ソファや畳を設置しているので入居者が自由に使用できるように工夫をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンスは施設が準備している。入居者が使い慣れたテーブルや椅子、仏壇など置かれレクリエーションで作った作品や写真、アルバムなどで家族の協力のもとレイアウトした個性が出ている居室になっている。	居室は木調のベッドや筆筒、エアコン、カーテンなどが備え付けられ、利用者が安全に生活できる環境が提供されている。また、馴染みの小物・家族写真・テレビ・仏壇などが配置され、居心地よく過ごせるような空間となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視力がやや悪い方も分かる字でトイレや居室（家族に名前を出す事を了解して頂き）をアピールしている。壁には手すりがついているので足取りが少々悪い方も手すりを使い進むことができる。レクリエーション時は個人の趣味を生かしたものを取り入れ一緒に取り組むなど行っている。センサーマットを使用する方もおられる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内の職員の目に届くところに理念を貼り、毎夕終礼時に唱和し共有を図っている。終礼時に行うことで、1日を振り返り自己を省みる機会となっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の行事（夏祭り、初午祭等）は入居者様と参加し、寿栄会の夏祭りや地域感謝祭には、地域の方々をお呼びし交流していたが、昨年よりコロナ感染防止の為、行事が中止になり、交流する機会や場が少なくなっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を継続して設けているが、コロナ感染防止の為、認知症サポート研修や地域の老人会の認知症に対する勉強会の参加が行えていない。オンラインでの開催を検討中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、現在、面会など外部の出入りを禁止している為、書面での報告となっている。今後はオンラインや公共の場所を借りるなどして開催を検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の開催する介護保険研修に参加、運営推進会議（現在は書面にて報告）に参加して頂いている。介護保険などについての疑問など相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会を通じて、身体拘束に関する認識を深め、状況に応じては、家族に相談することもある。日中、玄関の施錠はしていないので、自由に出入りができる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止フォーラム等に参加し、スタッフ間でも勉強会を行い、入居者様同士のトラブルに発展しないように努めている。また、スタッフ間でも情報共有し理解を深め、権利侵害などないように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時、家族への制度の説明をしている。相談があれば、その都度対応している。スタッフはいつでも対応できる姿勢でいる。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い不安や疑問点については、より詳細に説明をして理解して頂いている。その後の疑問や質問については、その都度説明をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム内の相談窓口を明確にしており外部での相談窓口ポスターも掲示している。現在、コロナ感染予防の為、家族会を開催できていないが、支払いなどでの訪問の際や電話などで細目にコミュニケーションを図り、意見を引き出している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営について困難が生じた場合、その都度意見や提案を聞く機会を設けている。その他、意見・提案を寿栄会の役員に述べる機会を設け反映されている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は個人目標をもとに個人面談を行い、人事考課を本部に提出し、昇進、昇給などに反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	幅広い年齢層が勤務している。職員募集にも年齢、性別を理由に採用対象から外すことはしていない。人間性重視の採用をし、無資格者には資格修得を目指し休日の調整や先輩スタッフからの指導、教育などホーム全体で協力している。資格取得者は給与に反映され、意欲を持って働けるように配慮されている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が小郡企業内人権同和問題研修推進委員会のメンバーであり、年に2、3回の研修に参加している。入職時に理念、人権啓発、尊厳、人間尊重の意識付けを行い、個人情報、守秘義務の尊寿について説明を行うなどの職員への人権教育をしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設病院に人材育成室があり、レベルに応じた研修へ参加し、学んでいる。ケアマネ、介護福祉士、認知症実務者研修等、希望者には研修を受ける機会もあり、情報提供もしている。コロナの影響もあり、研修参加が難しい場合もある為、併設の病院の研修にも積極的に参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は地域ケアシステム研究会、小郡三井地区介護保険研修会などへ参加し、他の施設の職員や同業者と交流する機会が多くあったが、研修の減少やオンラインによる研修が増え交流する機会が少なくなってきている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式のアセスメントや日々の生活の関りの中で、会話や情報から入居者様の希望や意向の把握に努め、主治医、家族にも相談している。意思疎通の困難な入居者様には家族や関係者からこれまでの暮らしや生活歴などの情報を得るようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様が1日でも早く馴染んでいただくよう、スタッフは他の入居者様も含め馴染みの関係を築けるよう援助し、何事も事前にご家族と話し合い家族の意向に近づけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様や家族の意向を聞き、計画作成担当者を中心にスタッフで話し合い介護計画を作成している。家族の意見も反映した計画であり、作成後は家族へ説明を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から生活歴、特技、趣味などを生活の中に組み込み、人生の先輩として意見を聞きアドバイスを委ねることもある。時には、入居者様から言葉をかけてもらい元気を頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、面会を禁止している為、何事も細目に連絡をして近況報告を行っている。本人の様子を見れるように希望のご家族には、テレビ電話を行い、日頃の様子を見ていただいている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の夏祭りや敬老会などの催しに参加したり、面会時間の制限を設けず、外出や家族の面会を楽しみにされていたが、コロナ感染防止により、面会、外出、外泊を禁止している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に孤立しないように、ホールで活動したり、話題の提供で会話を楽しんでいる。スタッフは入居者様が馴染みの関係を築けるようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設病院や協力病院に入院した入居者様には面会をしたり家族に状況を尋ね、必要な援助を行っている。家族が不安を抱えている場合は、話を聞き安心できるような声かけを行い信頼を得ている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式のアセスメントや日々の生活の関りの中で入居者様の会話、表情からニーズを把握するように努めている。会話の中で本人がどのような生活を望んでいるか尋ねている。意思疎通の困難な入居者様については、家族、関係者から情報を得ている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や友人、病院などから生活歴、これまでのサービス利用の情報を得て、施設でのサービスを活用している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を記録に記載し、一人一人の状態の把握と継続介護に活かしている。また、記載することで新たな発見や心身の状態を把握することができている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様本人や家族の意向を聞き、計画作成担当者を中心にスタッフで話し合い介護計画を作成し、本人や家族にも説明を行い同意を得ている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。状態が変化した場合は、家族や関係者間で話し合いを行い現状に即した新たな計画を作成している。個人日誌に気づきや工夫を記載し伝達、共有、評価、見直しに活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診やショッピングなど、入居者様の希望に応じて支援行っていたが、コロナ感染防止の為、外出が難しく、併設する売場での買い物、敷地内に来る移動図書館を利用するなど少しでもニーズに対応できるように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、書面で行っている運営推進会議を郵送する際、意見などを募る文章を記載し、FAXや電話にて意見、アドバイスをいただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は、かかりつけ医へ家族同伴の継続的な受診を推奨しているが、家族より併設病院へ変更を希望されることが多い。併設病院の外来看護師と協力しながら健康管理や往診時の補助を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関り、健康管理での気づきを併設病院の外来看護師へ報告し、内科担当医師へ判断を仰ぎ、早期発見早期治療に留意している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	併設病院へ内科・精神科で外来受診している。状態悪化時は入院も可能である。通常より外来、病棟と連携をとっており、より専門的治療を必要とする転院を要する場合、医療連携室と連動しスムーズに転院が行えるようサポートしている。本人・家族の精神的不安の軽減も行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重症化した場合についての対応を確認し説明している。家族の意思も確認している。できる限り対応しているが医療が必要と判断された場合は家族、主治医、看護師が話し合い、家族が納得、理解されるまで何度も話をして、家族が希望する病院へ入院となるように支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時手順を掲示しスタッフ間で周知できるようにしている。緊急マニュアルに沿って入職時説明を行い必要に応じ勉強会を開催している。併設病院での研修（AEDの使用方法、救急蘇生法）に年1回参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期消火、避難誘導、通報訓練など、年に数回行い消防署の立ち合いのもと指導を受けている。自主的な訓練も行っている。併設病院の多目的ホールが市の福祉避難所に指定されている為、そこまでの避難訓練も行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の理念に「尊厳ある生活ができるように支援する」と明記している。入居者の誇りやプライバシーを損ねる事のないように留意している。夜間のみ居室で使用しているポータブルトイレは日中は居室に置かないように配慮している。個人記録は事務所で記載し鍵をかけ保管管理している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的な食事会やおやつ会を催している。その際は、入居者様の好みを聞き、希望の献立を提供している。感染予防に気を付けながら、楽しく和やかな雰囲気大切にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床時間や食事、入浴に時間の制限はない。その方のペースを大切に、何事も強制しない支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の生活歴から、あるいは家族から聞き、好みの服を着て頂いたり、お化粧の声掛けをするなどの支援も行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2回、入居者様の希望を聞き、献立を考え、スタッフが食材を購入し調理をしている。感染予防に気を付けながら下ごしらえや食器洗い、おやつ作りなど、スタッフと一緒にやる。楽しい喫食の時間を過ごしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に併設病院の管理栄養士がカロリーを計算し献立を考えている。入居者様の嚥下状態に応じて刻み食、ペースト食を作り対応している。毎日食事、水分摂取量をチェックし記録している。必要エネルギー量の少ない方には家族と相談して栄養補助食品なども提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、歯磨きを実施、入居者様の状態に応じて介助している。義歯は就寝前に預かり、夜間に洗浄消毒を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて排泄誘導を行っている。尿量に応じて、布パンツ、紙パンツ、紙オムツ、パット類を選択し使用している。オムツの使用法が適切かどうか日常的に評価を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響など理解し便秘予防で適度な運動、十分な水分補給、腹部マッサージ、食物繊維(サプリ)の摂取などを行っている。個人に応じた緩下剤も医師の指示のもと使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は基本的に週3回としているが、希望される方は毎日でも可能である。入浴時間などの制限ではなくゆっくり入浴できるようにしている。拒否のある方は無理のないように声をかけ気分を変えて入浴して頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分な睡眠が取れるように、日中は適度な運動や散歩、外気浴、レクリエーションなどを日替わりで行っている。居室の温度調整や個人に合った寝具も家族に相談をし、揃えていただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方、薬の効果、副作用、飲み合わせなどの勉強会を開いている。処方の変更は体温表に記載し、全員が把握できるように申し送る。大きな錠剤などは粉状にして飲み込みやすくし、服用後口腔内の確認を行っている。また異常の早期発見目的もあり、毎朝バイタルサインのチェックも行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味・特技など把握し、食事作り、後片付け、生け花、草取り、乾いた洗濯物の片付けなどちょっとした家事など会話も楽しみながら気分転換をしながら行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設病院のグラウンドが隣接しているので日常的に散歩をしている。コロナ感染予防の為、外出できていないが病院の売店に行ったり、移動図書館を利用している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望に応じ各自がお金を所持できるように支援している。売店での買い物時、本人が欲しいものを選べるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じ自ら電話をかけ、家族や友人と話すことができる。希望される方には年賀状を用意したり手紙を書く支援も行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは中庭に面し間取りも広く明るい作りである。天井も高く圧迫感を感じない。ユニットを仕切っているドアを開放すると空間が広く感じゆったりできる雰囲気である。また玄関やリビングには季節の花を飾り季節感を味わいBGMが流れ居心地よく過ごせるように配慮している。中庭には季節ごとに花が咲く木を植えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに食事時のテーブル、ソファや畳を設置しているので入居様が自由に使用できるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンスは施設が準備している。入居者が使い慣れたテーブルや椅子、仏壇など置かれ、レクリエーションで作った作品や写真、アルバムなどで家族の協力のもとレイアウトした個性のある居室となっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視力がやや悪い方も分かる字でトイレや居室（家族に名前を出す事を了解して頂き）をアピールしている。壁には手すりを設置し足取りが悪い方も手すりを使って歩行することが出来る。レクリエーションの時は個人の趣味を生かしたものを取り入れ、一緒に取り組むなど行っている。センサーマットを使用している方も居られる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		